

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都台東区三筋 2-16-4
園名	台東区立三筋保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物

<テーマの設定理由>

- 日当たりが良く樹木や花々に囲まれた園庭環境を生かし、「植物」を探求したいと思われたため。
- 「花作り」を土作りや種まきから体験することで、様々な発見を楽しみながら植物の生長する姿に生命力を感じ、慈しみの心を育てたいため。
- 花や緑に触れ合うことで季節の移ろいを感じ、視覚・触覚・聴覚・嗅覚等を刺激し五感を養い、また感受性を豊かにしたいため。
- 野菜の栽培を通じて植物に関心をもち、食材の命に気づき、食事にかかわる人に対する感謝の気持ちを育てたいため。

2. 活動スケジュール

- 5月:事前準備(種をまく植物の名前貼り、土壌作り)
- 6月:樹木医と共に野菜や花の種まき、苗植え
- 7～9月:栽培と観察
- 8月:樹木医と共に観察、追肥
- 9月:樹木医と共に、事前準備(ペットボトルを利用した植木鉢作り、植物の名前貼り、土壌作り)
- 10月:樹木医と共に野菜や花の苗、種、球根植え
- 11月:樹木医と共に観察、追肥
- 12～3月:栽培と観察

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 野菜や花の種、苗、球根
- 土、肥料
- プランター、植木鉢替わりのペットボトル
- 支柱
- ブルーシート
- 図鑑
- 虫メガネ(土中の虫の観察用)、虫を観察するためのケース
- ジョーロ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 樹木医の指導を受け、野菜や花を育てる。
- 植物の栽培や世話、収穫等を通じて四季の自然に触れ、親しむ。
- 四季折々の植物や花を見て、触れて、感じて全身の五感をフルに働かせ知的好奇心や情操教育への実践にも繋げていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 土と肥料を混ぜる土壌作りの際、土の中からミミズや虫が出てくるとケースに入れて虫メガネで観察したり図鑑で調べたり、「ここにこんな虫がいるんだね。」とそっと触ってみる体験をする。
- 「なぜ土を混ぜるの?」の疑問が出てくるが、「大きくなるため!」「育つため!」と自分たちで答えを見つけている。混ぜながらも「森の匂いがするね。」「雨の日の土の匂いがする!」「土がふかふかになってきたね。」との感想や、真っ黒になった手を得意気に見せている。
- 樹木医から種や苗などの蒔き方、植え方、また水やりの回数、花のつみ方などの栽培物の育て方について教えていただく。「どんな花が咲くのかなあ?」「何になるのかなあ?」と想像したり探究したりする声が聞かれる。その声にこたえ樹木医から、生長過程の写真の提示やクイズ形式で花や野菜の確認をしていただく。
- ・「種は小さいんだね。」「一つ一つ形が違うんだね。」と種は種類によって、色や形、大きさの違いがあることに気づく。「早く芽が出ないかなあ。」「大きくなるのが楽しみだね!」と期待に胸を躍らせている。
- 自分達で蒔き植えた経験から、その後水やり等の世話を積極的に行い、大切に育て、発芽や生長の様子を観察する。順調に育っている様子を見て、「樹木医さんに見せてあげたいね!」「お花が咲いたよ!」「収穫できそうだよ!」と保育士等や友達と共感し歓喜の声が聞かれる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

○樹木医の指導を受けることで、植物を育てるには土壌作りや水やり、追肥等の世話が必要であること、花が枯れた時には花を摘むことで次々と花が咲くことなどの詳細を教えていただき勉強になった。

○世話をする、育てるという経験の中で、必ずしも順調に育つ訳ではないことも植物を学ぶ上では重要であることを知った。

○植物の様子を気かけ、心配し、どうすれば良いのかを一緒に考えることで、思いやりの心を育て、生命の大切さを幼児なりに感じる良い機会となった。

○植物栽培を通して、人や植物、食物を大切にするやさしい気持ちが育まれているように感じられた。

○新しい発見や疑問があると、友達や保育士等、樹木医に積極的に働きかけ共有し、自分たちで調べたり想像したりしながら、知的好奇心や探求心が深まってきた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都台東区三筋 2-16-4
園名	台東区立三筋保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

○プロの劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇鑑賞、また実際の簡単なセリフや動きを一緒に行う活動を行っている。その中で、声や音への反応が良い姿が見られることから、このテーマを設定し、子供たちの興味・関心をさらに深めていきたいと思ったため。

2. 活動スケジュール

6月：劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇、ワークショップ
7月：劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇、ワークショップ
9月：劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇、ワークショップ
10月：劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇、ワークショップ
11月：幼児クラスへの劇指導
12月：劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇、ワークショップ
1月：劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇、ワークショップ
2月：劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇、ワークショップ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 絵本・紙芝居
- 衝立、巧技台、椅子
- ピアノ等の楽器
- 布、カラービニールなどの小道具
- 劇団員による読み聞かせはクラスごと実施する。寸劇は、ホールで巧技台、衝立、小道具等を設置して行う。また、5 歳児クラスのワークショップもホールで様々な音に合わせて自由に表現したりジェスチャーを行う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- プロの劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせや寸劇鑑賞、また簡単なセリフや動きを一緒に行ったりしながら想像力を磨き、表現する楽しさや喜びを味わう。
- 布やカラービニールなどを用いて自分の感情を自由に表現したり、劇団員の出す声や音を聴いて、友達と様々な動きやジェスチャーを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 「○○さん来るかなあ？」と劇団員さんの名前を覚えており親しみや期待をもちながら、毎回活動を楽しみにしている。
- 読み聞かせでは、絵本や紙芝居の世界に想像を馳せる声も聞かれ、集中して観ている。
- 寸劇は、迫力ある団員さんの表現力に「すごいね！」と感嘆し、主人公の動きや表情に笑ったり、声を掛けたり、共感したりし、簡単な動きを真似するなど全身で楽しんでいる。
- 特に印象的だった「鶴の恩返し」「泣いた赤鬼」の昔話では、ストーリーに沿って、「見ちゃダメ!」「開けちゃダメ!」と声を上げ、顔を覆う姿や、泣いたり笑ったりと感情が大きく揺さぶられる姿が見られる。鑑賞後は「やさしい話だけどさびしくなっちゃった。」との感想が聞かれるほどであった。
- 恐怖心を抱きやすい子には、話の内容によっては観劇前にあらすじを伝えることで、スムーズな参加に繋がっていた。
- ワークショップは、劇団員による豊かな表現に誘導されながら、それぞれが個性豊かにのびのびと体を動かしている。
- 「波」「風」「手裏剣」「自分の名前」等の普段表現しないような言葉や音、擬音を聴いて体を動かす楽しさを味わう。「わあああ!」「ぎゅ〜ん!」「シュシュシュシュ〜」など動きに合わせた歓声も表出している。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

○劇団員による絵本・紙芝居の読み聞かせは、声の出し方、テンポ、余韻のたせ方など読み方、引き付け方がとても勉強になった。少しの工夫で子供たちのイメージや興味が広げられることを知った。

○話の内容に一喜一憂し引き込まれていく経験が、感性や想像力をより豊かにしていくことを実感した。

○各クラスの劇ごっこへのアドバイスは的確であり、小道具の配置、使い方、動かし方や子供たち自身の声の出し方など、効果的な表現についてとても得ることが多かった。発表会の本番では、これまでの劇団員さんによる寸劇鑑賞の影響もあり、のびのびといきいきと表現し自信をもってセリフを発することができていた。

○日頃から音への反応が良くなり、表現遊びに繋がったり、友達同士身体を動かして遊んだりする姿が見られるようになった。

○自然に表現する楽しさや感性が育まれ、より五感をフルに働かせる経験に繋がった。